

健康診断での尿酸値が「要治療」から「日常生活で注意」に改善したケース

佐藤 直子

男性 63 歳

【 主訴 】

職場の健康診断にて尿酸値が 9.0mg/dl で「要治療」の結果となる
(基準値は 3.7～7.8mg/dl)

【 具体的内容 】

尿酸値について 2～3 年前から基準値を若干超えるようになり、「経過観察」の結果となっていた。
健康診断結果通知から 3 ヶ月以内に医療機関を受診することとなっているので、本人はそれまでに値が下がるように何かサプリメントを飲もうかと言うので、ホメオパシーレメディを試してもらった。

【 レメディ選択 】 (2024 年 11 月初旬)

Berb. 30c

500ml ペットボトルの水に 1 粒入れたものを 1～2 日くらいかけて飲むことを約 1 ヶ月半続けた。
(もし好転反応が出た場合、仕事に支障があったら困るとのことで、講義で教わったレメディの反応を穏やかにする水ポテンシーでとってもらった)

【 選択の根拠 】

講義内で腎臓の問題や尿酸値が高めの人にバーパリスブルガーリスがあうと紹介されていたことから選択した。

【 経過 】

2025 年 1 月 14 日の再検査で尿酸値が 7.9mg/dl に下がっており、「要治療」から「日常生活で注意を要する」に判定が変わった。

本人は食事に気を付ける等、特に日常生活の改善に努めていたわけではないので、試しにやってみたレメディの効果に驚いていたが、体重の増加も原因の一つかもしれないと、ウォーキングや身体を動かすことを意識するようになった。

【 考察 】

講義中に他の受講者が痛風と尿酸値について質問し、講師が回答した内容をノートにメモしていたことを思い出し、今回のレメディとして選択した。

講義で教わったことを活用でき、結果にも現れてレメディの効果を実感することができた。